

野辺地ロータリークラブ（亀田俊彦会長）は12日、野辺地町の野辺地西高校で初の出前授業を行った。口から入るウイルスが神経を侵し、手足などをまひさせる病気「ポリオ」をテーマに、同クラブ会員の松山隆志さん（61）が講演。1年生45人が松山さんの話や映像を通じ、病気への理解を深めた。

同クラブと野辺地西高インターアクトクラブはこれまで一緒に活動してきた経緯があり、同

野辺地

校で出前授業をすることになった。

松山さんは映像を通じ、ポリオが1949年に八戸市で流行し、60年ごろに国内で感染拡大したことを説明。また、ロータリークラブが世界でポリオ撲滅に向け取り組んでいることや、現在もアフガニスタンと隣国パキスタンでは野生株が根絶できていない現状について述べた。その上で「ポリオは新型コロナ

ロータリークラブ 野辺地西高で出前授業

ナウイルスと同じ感染症。ポリオについて知ってもらい、世界中の人たちにワクチンを接種してもらうことが大事」と強調した。

出前授業を終え、藤田律さん

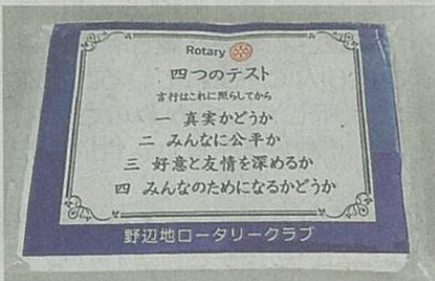
は「これまででは、ポリオの名前は聞いたことがあったが、詳しく分からなかった。映像は衝撃的だった。先人たちの尽力により国内で根絶できたことが分かったし、出前授業の内容を心に刻み、これから生活していきたい」と話した。

野辺地ロータリークラブは活動をPRするオリジナルのポケットティッシュ4千個を製作。町内の小中高校、役場などに配布する予定で、12日は野辺地西高に贈った。（兼平昌寛）

ポリオ撲滅 取り組み学ぶ



松山さん（右）の話に聞き入る生徒たち



野辺地ロータリークラブが製作したオリジナルポケットティッシュ